AgileWorks R3

GoogleWorkspace 認証設定ガイド

R3.3 第 1 版(2026/07/15)

ATLED

目次／索引

1. はじめに 4
1.1. 本書の目的 4
1.2. 対象読者 4
1.3. 前提条件 4
1.4. ライセンスについて 4
1.5. 他社商標について 4
2. 概要 5
2.1. 実現機能 5
2.2. 連携仕様 5
2.3. 前提条件 6
2.4. ガジェット利用時のユニークログインユーザー数の考え方 6
3. 事前設定 7
3.1. 認証に利用する引き当て項目の同期 7
3.2. OpenID Connect を利用する場合 7
3.3. OpenID 2.0（非推奨）を利用する場合 13
4. ユーザーサイト連携設定 14
4.1. AgileWorks ログイン認証設定 14
4.2. リダイレクト URI の登録 16
4.3. SSO 用 URL の確認 18
4.4. GoogleWorkspace アカウントでのログイン 18
5. ガジェット連携設定 19
5.1. AgileWorks ログイン認証設定 19
5.2. リダイレクト URI の登録 22
5.3. ガジェット表示用 URL の用意 23
5.4. GoogleWorkspace でのガジェット設定 24
6. GoogleWorkspace 認証連携利用時の注意事項 29
6.1. AP サーバーの時刻設定について 29

◆ 改版履歴

版数	年月日	改版内容
第 1 版	2026 年 07 月 15 日	第 1 版作成

1. はじめに

1.1. 本書の目的

本書は AgileWorks の GoogleWorkspace 認証連携機能の概要、設定手順について説明します。

1.2. 対象読者

本書は、AgileWorks のログイン認証機能に関する基本知識を持つ方を対象としています。ログイン認証に関する詳細な情報についてはガイド資料「Aw02-ログイン認証ガイド」「AwOp01-SSO 設定ガイド」をご参照ください。

1.3. 前提条件

本書はリリース日時点で確認されている情報を元に作成されています。
GoogleWorkspace 側の仕様変更があった場合、本書とは異なる手順が発生する可能性があります。

1.4. ライセンスについて

本書で説明する GoogleWorkspace 認証連携機能を利用にするには、GoogleWorkspace 認証連携オプションが別途必要となります。詳細につきましては、AgileWorks 販売代理店までお問い合わせください。

1.5. 他社商標について

Google、Google ロゴ、GoogleWorkspace は、Google inc.の登録商標または商標です。
その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する会社の商標または登録商標です。本書では、©、®、(TM)の表示を省略しています。ご了承ください。

2. 概要

2.1. 実現機能

AgileWorks が GoogleWorkspace と連携すると以下の機能が実現できるようになります。

2.2. 連携仕様

AgileWorks と GoogleWorkspace は OpenID Connect を利用して連携を実現しています。
OpenID Connect とは、ウェブサイトの URL 形式で構成されたユーザーの身元確認を行うための認証規格です。
GoogleWorkspace アカウントは OpenID に対応しているため、GoogleWorkspace 認証連携ではこの OpenID Connect を利用してシングルサインオンを実現します。
※モバイル端末を利用して Safari でガジェットを表示する場合、Safari の設定からサードパーティークッキーの利用を許可しておく必要があります。

> ⚠ 注意事項
> OpenID 2.0 を利用した連携にも対応しておりますが、GoogleWorkspace が OpenID 2.0 のサポートを 2015 年 4 月にて停止することから、OpenID 2.0 を利用した連携は非推奨としています。
> R2.5.0、又は R2.4.0 以前から AgileWorks と GoogleWorkspace の連携を行っている場合は OpenID 2.0 を利用しておりますので、R2.4.1 又は R2.5.1 以降にバージョンアップ後、本書を参考に OpenID Connect を利用した連携に変更をお願いします。

実際の認証のイメージは以下の通りです。

▼ 認証イメージ



2.3. 前提条件

GoogleWorkspace との連携には、下記の前提条件があります。

1) AgileWorks と Google 間の通信

AgileWorks と GoogleWorkspace が連携するには、AgileWorks から Google へ通信可能である必要があります。
また、以前の Google サイトへのガジェット公開、サードパーティクッキーが無効な環境／ブラウザへ対応する場合、AgileWorks の XML を Google が確認できる必要があるため、以下が必要となります。

・Google から AgileWorks へアクセスできる状態
→ AgileWorks がインターネットに公開されている

2) AgileWorks への接続 URL

GoogleWorkspace 側に連携する URI を登録する際に以下の条件がございます。

- クライアント端末から AgileWorks へ接続する際の FQDN はパブリックトップレベルドメインで終わる必要があります。※.com、.org など
- クライアント端末から AgileWorks へ接続する際の URL は「https」から始まる必要があります。

3) サードパーティークッキー利用設定

サードパーティクッキーをブロックしているブラウザでガジェットを利用する場合､サードパーティークッキーを利用するために AgileWorks に対して https でアクセスできるように設定する必要があります。
また、以下 2 つのサーバー設定ファイルについても修正が必要になります。
修正後、アプリサーバーの再起動を行ってください。

①context.xml
・ファイル格納場所
apps¥tomcat¥conf
・最終行の</Context>の直前に same site 設定追加

```
<CookieProcessor sameSiteCookies="none" />
```

②web.xml
・ファイル格納場所
apps¥tomcat¥conf
・<session-config>タグ内に cookie の secure 設定追加

```
<session-config>
    <session-timeout>30</session-timeout>
    <cookie-config>
        <http-only>false</http-only>
        <secure>true</secure>
    </cookie-config>
</session-config>
```

2.4. ガジェット利用時のユニークログインユーザー数の考え方

ガジェットにてログイン（SSO）を行った直後は AgileWorks のライセンスにてカウントされる同時ログインユーザー数にはカウントされません。
ガジェットから「ユーザーサイト」や「書類（ドキュメントビューア）」を開いたタイミングで同時ログインユーザー数にカウントされるセッションに変化します。

その後、ユーザーサイトや書類の操作を続けている限り、同時ログインユーザー数にカウントされ続けますが、
必要な操作（書類の申請や承認など）を終え、ガジェットのリロード、または自動リロードのみの時間が一定時間続くとそのセッションはライセンスの同時ログインユーザー数にカウントされなくなります。
※ガジェットにログインした直後と同じ扱いに戻ります。
R3.1.1a 以降での動作です。

本動作の詳細につきましてはサポートサイトの「ガジェット利用時のセッションについて」をご参照ください。

3. 事前設定

GoogleWorkspace とのログイン認証設定を行う前に、GoogleWorkspace 側で必要な設定を行います。
利用する連携方式によって必要な設定が異なりますので、実際に利用する方式の内容を参照ください。

3.1. 認証に利用する引き当て項目の同期

GoogleWorkspace から AgileWorks へ SSO する際の認証で利用する引き当て項目を同期してください。
引き当てに利用する項目を AgileWorks 側で一意にしておく必要があります。

例えば、引き当て項目にメールアドレスを利用している場合、AgileWorks に同じメールアドレスが設定されているユーザーが複数存在すると、認証に失敗します。

3.2. OpenID Connect を利用する場合

OpenID Connect を利用して GoogleWorkspace と連携するには GoogleWorkspace から以下の認証情報を取得する必要があります。

- クライアント ID
- クライアントシークレット

この認証情報は AgileWorks にてログイン認証を設定する際に利用します。

以下の手順を実施し、GoogleWorkspace から認証情報を取得してください。

1) Google Developers Console へアクセス

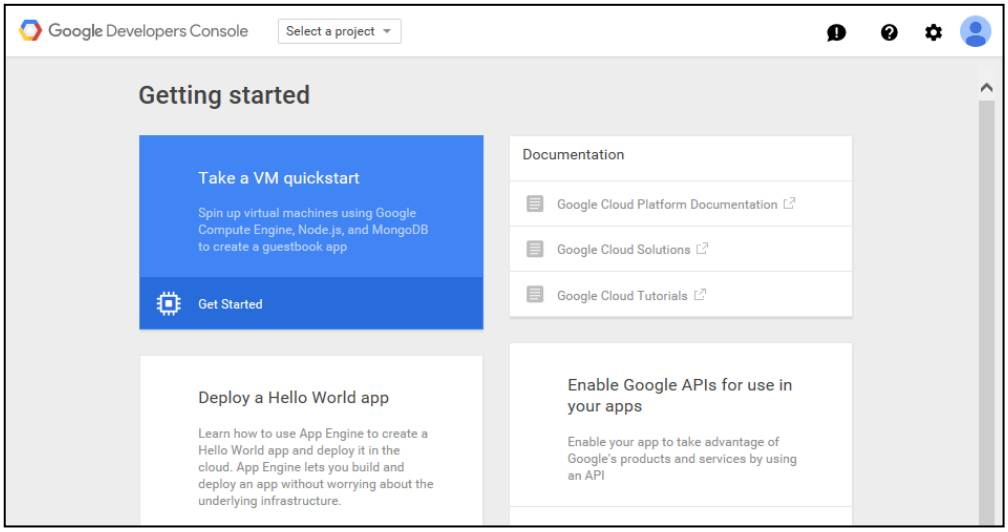
認証情報の取得は Google Developers Console より行います。
ブラウザを起動し、以下の URL にアクセスしてください。

https://console.developers.google.com/

2) 連携する GoogleWorkspace の管理者でログイン

AgileWorks と連携する GoogleWorkspace の管理者アカウントでログインしてください。

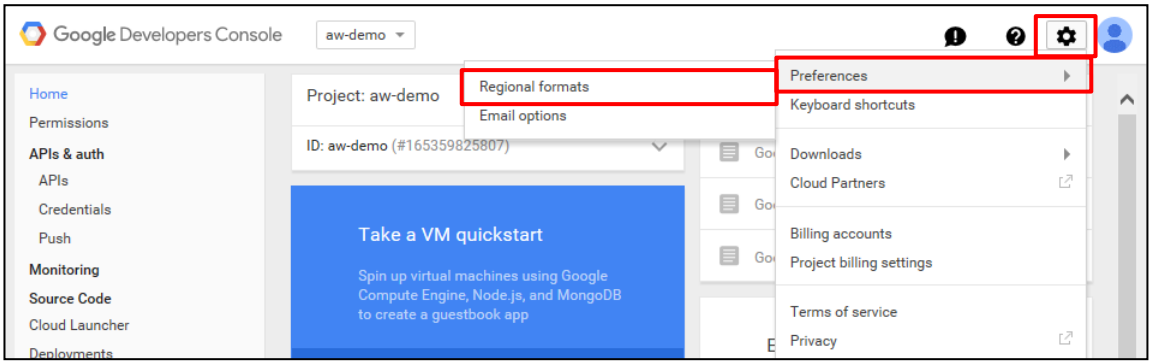
▼ログイン後の画面



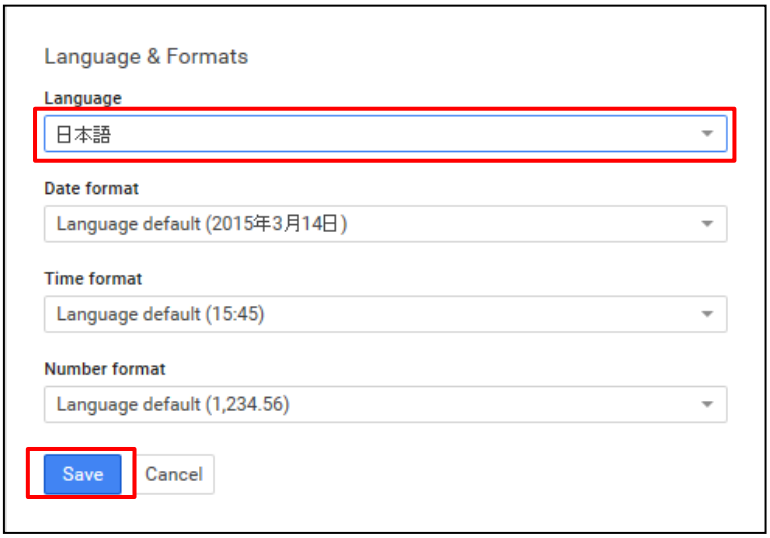
3)　Google Developers Console を日本語表示にする

Google Developers Console を初めて利用する場合、言語設定が英語になっている場合があります。
本書では日本語で表示した画面で手順の説明を行いますので、判り易いように以下の設定を行うことを推奨します。
※日本語表示にしない場合は次の手順に進んでください。

▼上部メニューの設定アイコンから Preferences > Regional formats をクリック



▼表示された画面から「Language」を変更し、「Save」をクリック



▼設定後、日本語で表示されるようになります



4)　プロジェクトの作成

プロジェクトを作成します。
ここで作成するプロジェクトは認証情報の発行や AgileWorks との連携を許可するかどうかの設定などを行います。

▼ 画面上部のコンボボックスから「プロジェクトを作成」を選択



▼「プロジェクト名」を入力し、利用規約の確認・同意を行い「作成」をクリック



項目名	選択 / 入力値
プロジェクト名	任意の文字列を入力してください。
プロジェクト ID	任意の文字列を設定してください。 初期値のままでも問題ありません。

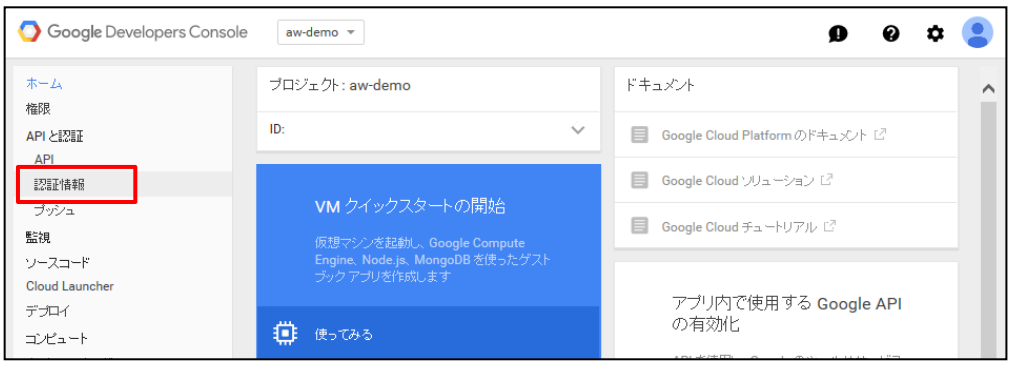
▼暫く待つとプロジェクトが作成され、プロジェクトダッシュボードが表示されます。



5)　プロジェクトに認証情報を発行

作成したプロジェクトから AgileWorks との連携に利用する認証情報を発行します。

▼「API と認証」の「認証情報」をクリック



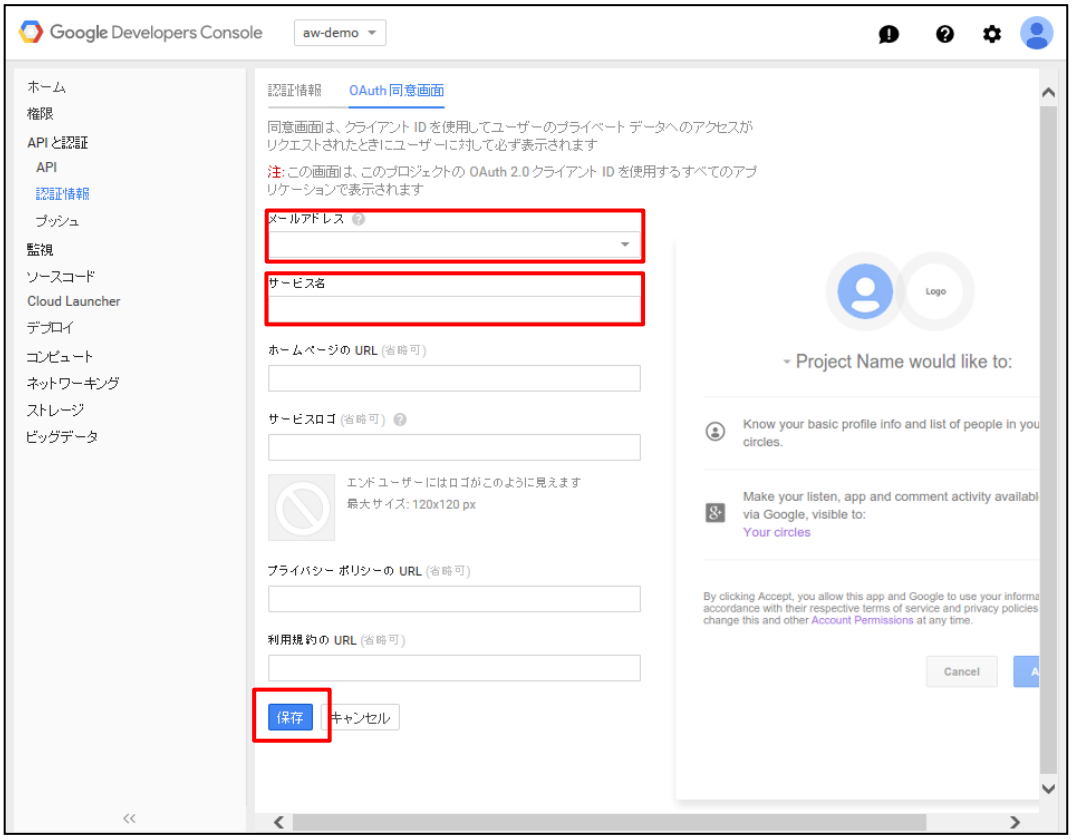
▼表示された「認証情報」画面から「認証情報を追加 > OAuth 2.0 クライアント ID」をクリック



▼下図の警告が表示された場合は、同意画面を開きサービス名を設定します。



▼OAuth 同意画面でメールアドレスとサービス名を入力し、保存をクリックします。



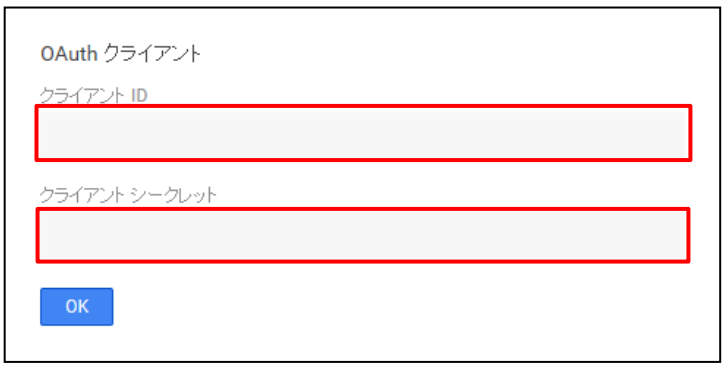
項目名	選択 / 入力値
メールアドレス	候補の中から任意に選択してください。
サービス名	任意の名称を入力してください。
その他も項目	省略できます。 入力する場合は任意に入力してください。

▼「ウェブアプリケーション」を選択して「クライアント ID を作成」をクリック
「承認済みの JAVASCRIPT 生成元」と「承認済みのリダイレクト URI」はクリアしてください。
※後で変更できます。



項目名	選択 / 入力値
アプリケーションの種類	ウェブアプリケーションを選択します。
承認済みの JAVASCRIPT 生成元	未入力
承認済みのリダイレクト URI	GoogleWorkspace 連携を利用して AgileWorks へアクセスする際の URI を入力します。 事前準備の時点では未入力としてください。 ※ユーザーサイト連携設定の「リダイレクト URI の登録」又は ガジェット連携設定の「リダイレクト URI の登録」にて設定します。

▼認証情報が発行されます。（実際には赤枠部に文字列が表示されています）
「クライアント ID」と「クライアントシークレット」を AgileWorks 側のログイン認証設定にて利用します。



以上で OpenID Connect を利用する場合の事前設定は完了です。

3.3. OpenID 2.0（非推奨）を利用する場合

GoogleWorkspace 側で OpenID プロバイダの設定が必要になります。OpenID を使用したサードパーティのウェブサイトへのログインを許可するように設定して下さい。

[設定手順]
1) GoogleWorkspace に管理アカウントでログインし、[ドメイン設定]画面にアクセスします。
2) [Advanced Tools] – [Federated Login using OpenID]にアクセスします。
3) [Allow users to sign in to third party websites using OpenID]にチェックして保存します。

※ 上記設定手順は英語による機能名での手順となりますので、日本語画面の場合は適宜置き換えてください。
※ 上記設定手順は 2010 年 8 月 2 日時点の手順となります。GoogleWorkspace 側の画面変更などにより異なる可能性があります。

4. ユーザーサイト連携設定

この章では、実際に GoogleWorkspace 認証連携を行う際の設定手順や、認証が正常に動作しているかの確認手順について説明します。

4.1. AgileWorks ログイン認証設定

GoogleWorkspace との連携に必要な設定は以下の手順で行います。

1) 設定画面の表示

ログイン認証画面のメニューバー【新規】-【Google Apps 連携】をクリックします。

▼管理サイト【サイト管理】-【サイト共通設定】-【認証・セキュリティ】-【ログイン認証】



2) 基本情報の入力

「基本」タブにて、コード・名称・対象アプリケーション・利用状態を入力します。

▼「基本」タブの設定



設定項目

項目名	選択 / 入力値
コード	後から識別する為の任意コードを入力。 例）ga_usersite
名称	後から識別する為の任意名称を入力。 例）GoogleWorkspace 用ユーザーサイト
対象アプリケーション	"ユーザーサイト"を選択。
利用状態	"利用可能"にします。

3)　認証方式の選択

「Google 認証」タブにて GoogleWorkspace との認証方式を選択します。
※認証方式以下の項目は、選択した認証方式によって異なります。

「OpenID Connect」を利用する場合は手順 4）へ
「OpenID 2.0(非推奨)」を利用する場合は手順 5）へ進んでください。

▼「Google 認証」タブの認証方式を選択



4)　OpenID Connect 利用時の認証設定

認証方式に OpenID Connect を選択した場合は以下の項目を設定します。

▼OpenID Connect 選択時の設定画面



項目名	選択 / 入力値
Client ID	「OpenID Connect を利用する場合」で発行したクライアント ID
Client secret	「OpenID Connect を利用する場合」で発行したクライアントシークレット
AgileWorks ユーザーとの引当方法	GoogleWorkspace ユーザーのメールアドレスと AgileWorks ユーザーのどの属性項目を引き当てるか指定します。（プルダウンリストからはログイン ID／メールアドレス／ユーザーコード／ユーザー拡張項目のいずれかを選択できます）

5)　OpenID 2.0(非推奨)利用時の認証設定

認証方式に OpenID 2.0(非推奨)を選択した場合は以下の項目を設定します。

▼OpenID 2.0(非推奨)OpenID Connect 選択時の設定画面



項目名	選択 / 入力値
ドメイン	連携する GoogleWorkspace のドメインを指定します。
AgileWorks ユーザーとの引当方法	GoogleWorkspace ユーザーのメールアドレスと AgileWorks ユーザーのどの属性項目を引き当てるか指定します。（プルダウンリストからはログイン ID

／メールアドレス／ユーザーコード／ユーザー拡張項目のいずれかを選択できます）

6)　画面遷移に関する設定

ログアウトリンクの表示や、セッションタイムアウト時の遷移先などを設定します。
特に必要がなければ設定を変更する必要はありません。

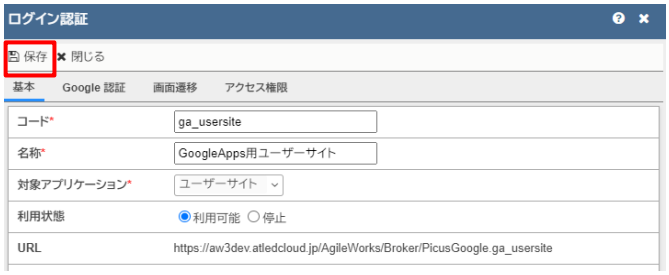
▼「画面遷移」タブの設定



7)　設定の保存

設定内容を保存します。

▼「保存」を押下すると「基本」タブに連携用 URL が表示され、「アクセス権限」タブが表示されます。



4.2.　リダイレクト URI の登録

連携方式に OpenID Connect を利用している場合は、「OpenID Connect を利用する場合」で作成したプロジェクトに AgileWorks の URI を登録する必要があります。
※OpenID 2.0 を利用している場合は実施する必要はありません。

1)　リダイレクト URI の確認

「AgileWorks ログイン認証設定」で設定したログイン認証からリダイレクト URI を確認します。
この URL は「システム URL」を下に生成されます。
※「システム URL」が設定されていない場合は「/Broker」以降のみ表示されます。

▼「Google 認証」タブの「Redirect URI」に表示されています。



「システム URL」が設定されていない、又は「システム URL」に設定されている FQDN とは異なる FQDN でアクセスしたい場合は以下を参考に連携用 URL を確認してください。

▼連携用 URL

https://{Server}/{Context}/Broker/PicusGoogle.{Code}

- {Server} : AgileWorks の Web サーバー接続用 FQDN（パブリックトップレベルドメインで終わる必要があります）
- {Context} : インストール時に指定したコンテキスト名。（初期設定通りインストールすると AgileWorks）
- {Code} : ログイン認証設定の「コード」

2) Google Developers Console の認証情報画面にアクセス

「OpenID Connect を利用する場合」にて作成したプロジェクトの「認証情報」画面から「名前」をクリックします。



3) リダイレクト URI を登録

手順 1)にて確認した URL を「承認済みのリダイレクト URI」に入力し「保存」します。



4.3. SSO 用 URL の確認

保存されたログイン認証には「基本」タブに SSO 用の URL が表示されます。
この URL は「システム URL」を下に生成されます。
※「システム URL」が設定されていない場合は「/Broker」以降のみ表示されます。



GoogleWorkspace との SSO 連携にて AgileWorks にアクセスする場合はこの URL にアクセスしてください。

「システム URL」が設定されていない、又は「システム URL」に設定されている FQDN とは異なる FQDN でアクセスしたい場合は以下を参考に連携用 URL を確認してください。

▼SSO 用 URL

https://{Server}/{Context}/Broker/PicusGoogle.{Code}

- {Server} : AgileWorks の Web サーバー接続用 FQDN（パブリックトップレベルドメインで終わる必要があります）
- {Context} : インストール時に指定したコンテキスト名。（初期設定通りインストールすると AgileWorks）
- {Code} : ログイン認証設定の「コード」

4.4. GoogleWorkspace アカウントでのログイン

ログイン認証設定後に、SSO 用 URL にアクセスしてみます。

GoogleWorkspace にログイン済みのブラウザから連携用 URL にアクセスすると AgileWorks にログインします。
もし、GoogleWorkspace にログインしていないブラウザから SSO 用 URL にアクセスすると、一度 GoogleWorkspace のログイン画面が表示され、その後の AgileWorks へログインします。

また、GoogleWorkspace と連携して AgileWorks へログインする際に、GoogleWorkspace の情報利用することの許可を求められた場合は「承認する」を選択してください。

▼メールアドレスの利用許可を求める画面（2014/10/21 時点で確認している画面）



5. ガジェット連携設定

この章では、GoogleWorkspace に AgileWorks のガジェットを表示させるまでの手順を説明します。

5.1. AgileWorks ログイン認証設定

GoogleWorkspace との連携に必要な設定は以下の手順で行います。

1) 設定画面の表示

ログイン認証画面のメニューバー【新規】-【Google Apps 連携】をクリックします。

▼管理サイト【サイト管理】-【サイト共通設定】-【認証・セキュリティ】-【ログイン認証】



2) 基本情報の入力

「基本」タブにて、コード・名称・対象アプリケーション・利用状態を入力します。

▼「基本」タブの設定



設定項目

項目名	選択 / 入力値
コード	後から識別する為の任意コードを入力。 例）ga_gadget
名称	後から識別する為の任意名称を入力。 例）GoogleWorkspace 用ガジェット
対象アプリケーション	"ガジェット"を選択。
利用状態	"利用可能"にします。
サイト種別	連携用の URL に表示される形式が変わります。 ・従来の Google サイト 以前の Google サイトにガジェットを埋め込む際に利用する形式で URL が表示されます。 ※R3.1 リリース時点で新規作成することができないバージョンの Google サイトを修正する以外には利用しません。 参考）以前の Google サイトから新しい Google サイトへの移行 ・新しい Google サイト 各ガジェットに直接アクセスする URL が表示されます。 R2.12.1 リリース時点で作成可能な Google サイトやその他のポータルなどにガジェットを表示する場合は基本的にこちらを選択します。

3) 認証方式の選択

「Google 認証」タブにて GoogleWorkspace との認証方式を選択します。
※認証方式以下の項目は、選択した認証方式によって異なります。

「OpenID Connect」を利用する場合は手順 3）へ
「OpenID 2.0(非推奨)」を利用する場合は手順 4）へ進んでください。

▼「Google 認証」タブの認証方式を選択



4) OpenID Connect 利用時の認証設定

認証方式に OpenID Connect を選択した場合は以下の項目を設定します。

▼OpenID Connect 選択時の設定画面



項目名	選択 / 入力値
Client ID	「OpenID Connect を利用する場合」で発行したクライアント ID
Client secret	「OpenID Connect を利用する場合」で発行したクライアントシークレット
AgileWorks ユーザーとの引当方法	GoogleWorkspace ユーザーのメールアドレスと AgileWorks ユーザーのどの属性項目を引き当てるか指定します。（プルダウンリストからはログイン ID／メールアドレス／ユーザーコード／ユーザー拡張項目のいずれかを選択できます）

5)　OpenID 2.0(非推奨)利用時の認証設定

認証方式に OpenID 2.0(非推奨)を選択した場合は以下の項目を設定します。

▼OpenID 2.0(非推奨)OpenID Connect 選択時の設定画面



項目名	選択 / 入力値
ドメイン	連携する GoogleWorkspace のドメインを指定します。
AgileWorks ユーザーとの引当方法	GoogleWorkspace ユーザーのメールアドレスと AgileWorks ユーザーのどの属性項目を引き当てるか指定します。（プルダウンリストからはログイン ID／メールアドレス／ユーザーコード／ユーザー拡張項目のいずれかを選択できます）

6)　画面遷移に関する設定

ログアウトリンクの表示や、セッションタイムアウト時の遷移先などを設定します。
特に必要がなければ設定を変更する必要はありません。

▼「画面遷移」タブの設定



7)　設定の保存

設定内容を保存します。

▼「保存」を押下すると「基本」タブに連携用 URL が表示され、「アクセス権限」タブ



5.2. リダイレクト URI の登録

連携方式に OpenID Connect を利用している場合は、「OpenID Connect を利用する場合」で作成したプロジェクトに AgileWorks の URI を登録する必要があります。
※OpenID 2.0 を利用している場合は実施する必要はありません。

1) リダイレクト URI の確認

「AgileWorks ログイン認証設定」で設定したログイン認証からリダイレクト URI を確認します。
この URL は「システム URL」を下に生成されます。
※「システム URL」が設定されていない場合は「/Broker」以降のみ表示されます。

▼「Google 認証」タブの「Redirect URI」に表示されています。



「システム URL」が設定されていない、又は「システム URL」に設定されている FQDN とは異なる FQDN でアクセスしたい場合は以下を参考に連携用 URL を確認してください。

▼連携用 URL

http(s)://{Server}/{Context}/Broker/GadgetGoogle.{Code}

- {Server} : AgileWorks の Web サーバー接続用 FQDN（パブリックトップレベルドメインで終わる必要があります）
- {Context} : インストール時に指定したコンテキスト名。（初期設定通りインストールすると AgileWorks）
- {Code} : ログイン認証設定の「コード」

2) Google Developers Console の認証情報画面にアクセス

「OpenID Connect を利用する場合」にて作成したプロジェクトの「認証情報」画面から「名前」をクリックします。



3)　リダイレクト URI を登録

手順 1)にて確認した URL を「承認済みのリダイレクト URI」に入力し「更新」します。



5.3.　ガジェット表示用 URL の用意

この手順は以下の場合に実施します。

- サードパーティクッキーが無効化された環境／ブラウザへの対応が必要な場合
- 基本タブ ＞ サイト種別にて「従来の Google サイト」を選択した場合

ログイン認証設定 ＞ Google 認証タブのリダイレクト URI を利用してガジェット表示用 URL を用意します。



- **{リダイレクト URI}?Code=$portlet.{ガジェットの種類}**

{ガジェットの種類}は書類件数= count／書類一覧= list／書類作成 = create となります。
以下、それぞれの HTML 格納場所と URL 記載例です。

▼書類件数ガジェットの例
ガジェット表示用 HTML ファイル
　　apps¥tomcat¥webapps¥AgileWorks¥gadget-ga¥count.html
URL 記載例
　　location.href = "{リダイレクト URI}/?Code=$portlet.count";

▼書類一覧ガジェットの例
ガジェット表示用 HTML ファイル
　　apps¥tomcat¥webapps¥AgileWorks¥gadget-ga¥list.html
URL 記載例
　　location.href = "{リダイレクト URI}/?Code=$portlet.list";

▼書類作成ガジェットの例
ガジェット表示用 HTML ファイル
　　apps¥tomcat¥webapps¥AgileWorks¥gadget-ga¥create.html
URL 記載例
　　location.href = "{リダイレクト URI}/?Code=$portlet.create";

5.4. GoogleWorkspace でのガジェット設定

GoogleWorkspace に AgileWorks のガジェットを表示する設定を行います。
ここでは Google サイトにガジェットを表示する方法を説明します。

1) ガジェット表示させるサイトの作成

まずは、ガジェットを表示させるサイトを作成します。
▼Google サイトから新しいサイトを作成し、任意の名前を設定します。





2) 初回の認証

初めて AgileWorks のガジェットへアクセスする場合、認証が必要となります。
この認証を行うため、以下のようにテキストボックスに URL を設定します。
設定する URL はそれぞれ以下から確認します。

- ログイン認証設定 > 基本タブ > サイト種別にて「新しい Google サイト」を選択した場合
  - ➢ 対象のログイン認証設定 > 基本タブ > URL に表示されている URL を設定します。
- 上記以外の場合
  - ➢ 「ガジェット表示用 URL の用意」で用意した URL を設定します。

▼画面右側の挿入 > テキストボックスを選択します。



▼「リンクを挿入」からガジェットのどれか 1 つの URL を設定します。



▼リンク部分に URL を入力し、適用します。



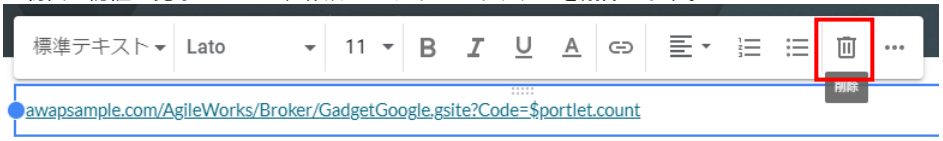
▼用意した URL がテキストボックスにセットされます。



▼URL をセットしたテキストボックスをクリックし、AgileWorks と GoogleWorkspace の認証を行います。
その際に、以下のような承認画面が表示された場合は「承認する」を選択してください。



▼初回の認証が完了したので、作成したテキストボックスを削除します。



3)　ガジェット埋め込み用コードの用意

「ガジェット表示用 URL の用意」で用意したガジェット用の URL と以下の HTML コードを合わせて、埋め込むコードを用意します。

▼埋め込む HTML コードの形式

```
<iframe width="横幅" height="縦幅" src="ガジェット　URL"></iframe>
```

▼書類件数ガジェットの URL を埋め込んだ例

```
<iframe width="300px" height="300px
 " src="https://awap.sample.com/AgileWorks/Broker/GadgetGoogle.gsite?Code=$portlet.count">
 </iframe>
```

サードパーティクッキーが無効な環境／ブラウザへ対応する場合は以下の HTML コードになります。

▼埋め込む HTML コードの形式

```
<iframe width="横幅" height="縦幅" src="HTML へのアクセス URL"></iframe>
```

▼書類件数ガジェットの URL を埋め込んだ例

```
 <iframe width="300px" height="300px"
 src="http(s)://{Server}/{Context}/gadget-ga/count.html"
 sandbox="allow-storage-access-by-user-activation
          allow-top-navigation
          allow-popups
          allow-popups-to-escape-sandbox
          allow-forms
          allow-scripts
          allow-same-origin">
 </iframe>
```

▼ガジェットクリック時に利用するウィンドウやリロードする時間などを調整する場合はパラメータを指定します。
パラメータを利用すると、ガジェットから書類を開いた際に利用するウィンドウや書類一覧ガジェットで初期表示される一覧の種類などを設定することができます。

例えば、書類件数ガジェットから書類を開く際のウィンドウを指定するには以下のように URL を修正します。

【修正前】

```
http://awsp.sample.com/AgileWorks/Broker/GadgetGoogle.ga_gadget?Code=$portlet.count
```

【修正後：URL の末尾に&aw_target=_top を追記】

```
http://awsp.sample.com/AgileWorks/Broker/GadgetGoogle.ga_gadget?Code=$portlet.count &aw_target=_top
```

利用可能なパラメータは、別紙「ログイン認証／SSO ガイド」を参照の上、適宜調整してください。
また、ガジェットからの書類表示は、AgileWorks ユーザーサイトの仕事・検索画面からの表示とは異なる点がありますので、ガジェットからの書類表示方式についても別紙「ログイン認証／SSO ガイド」を参照してください。

4)　ガジェットの埋め込み

用意した埋め込み用コードを使って、ガジェットを追加します。
▼画面右側の挿入 > 埋め込むを選択します。



▼「ウェブからの埋め込み」>「埋め込みコード」を選択し、用意した埋め込み用コードをセットします。



▼指定したガジェットが表示されることを確認し、挿入を選択します。
※サードパーティーCookie がブロックされている場合、「サードパーティクッキー許可を行います。」ボタンが表示されます。



▼設定箇所にガジェットが挿入されます。



「サードパーティクッキー許可を行います。」ボタンを押下し、「Cookie とサイト データを許可しますか?」の
ポップアップで「許可」を選択することでガジェットが表示できます。
ガジェット表示ブラウザで 1 度も AgileWorks にアクセスしたことが無い場合表示エラーとなるため、
AgileWorks にログイン後ページの再読み込みを行ってください。
サードパーティクッキーのアクセス許可は 30 日間となっており、期間内にガジェット表示などでサードパーティクッキーにアクセスした場合許可が自動延長されます。
30 日間サードパーティクッキーにアクセスしなかった場合、再度アクセスを許可することでガジェットの表示が出来ます。

6. GoogleWorkspace認証連携利用時の注意事項

GoogleWorkspace 認証連携を行う際の注意事項について説明します。

6.1. AP サーバーの時刻設定について

OpenID による連携では、AgileWorks AP サーバーの時刻が標準時とずれていると認証に失敗します。
（標準時で動作する GoogleWorkspace の時刻とずれていると認証に失敗します）
各 AP サーバーの時刻は NTP サーバーと同期させ、標準時に合わせるようにしてください。

▼ サーバー時刻が標準時と異なる場合、認証失敗時に以下のエラーログが出力されます。

AgileWorks エラーログ

```
ERROR - jp.atled.component.openid.OpenIDException: jp.atled.component.openid.google.VerificationException: 0x0: something went wrong during response verification, such as nonce or signature checking. Check your debug logs.
```

AP サーバーのコンソールログ

```
ERROR - Nonce verification failed.
```